

岩手県工業技術研究推進会議 材料技術部会議事録	(実施日) 平成16年10月26日(火)
----------------------------	-----------------------------

(テーマ名) 次世代精密金型の高付加価値化技術の開発 (事前評価)

委員	質問・意見	回答
C委員	梨地の定義は粗さでいうとどの位か？ 金型面は平面・垂直・斜め面といった色々な面があるが、梨地面はそれら全面を考えているのか？	梨地の粗さに関しては現在明確な定義をしていないので、現状製品を調査して決めたいと考えている。 本テーマで用いられる金型面は平面を対象と考えている。
G委員	半導体関係を対象にした金型か？	主に半導体関係を対象にした金型である。
D委員	金型の材料は何か？ 材料が変わると表面処理も変わるか？	材料はステンレス関係を考えている。材料が変わると処理方法も変わる。
E委員	蒸着の時に磁場をかけた研究を以前していたが、今回の電場はより効果があるのか？電場の方が簡単ですね。	電場の方が簡単で、効果があると考え。磁場は磁場活用の事業で行っていた。
A委員	凹面に優先的に蒸着させる方法は？ 電位蒸着法とはイオンプレーティングのことか？	蒸着では、凹面に優先的に分子が堆積しやすい性質があり、その利用である。 蒸着材料がイオン化ではなく分極している点がイオンプレーティングと異なり、今までにない方法である。
D委員	金型材料の開発からスタートすれば、このような表面処理を行わなくても離型性を付与できないものか？	離型に関しては有機のフッ素化合物が一番優れており、有機と金属を混ぜて使うのは難しいと考えている。
F委員	(コメント) 金型離型について多くの研究が行われているが、実際はいいものがない。金型材料だけで離型性が発現できれば産業が振興すると思う。	